



▶ 植田さんの話を聞いている様子

働く魅力を知る日に 南関中学校2年生

生徒の職業観などを養うことを目的に南関中学校(樹本龍次校長)は6月25日、職業講話を開催し、2年生52人は仕事のやりがいなどを学びました。

この日講師を務めたのは町企業の社長や保護司の4人。また、南関中卒業生で、トヨタ工業学園(愛知県)高等部2年の植田創一朗さん(細永出身)もビデオ会議システムを使い、リモートで後輩へ学園生活や進学先を決めた理由などを話しました。

講話を聞いた長寿弥さん(下坂下)は「先輩の話を知ることができて進路を考える良いきっかけになった」と目を輝かせて感想を話しました。

稲刈りが楽しみ

四小5年生が田植え体験

第四小学校(坂本隆文校長)は、近くの水田で6月17日、5年生13人と児童と坂下の学校応援団が田植えを行いました。

この日は、地区の人が講師として参加し児童に田植えの方法を教えていました。児童たちは、ぬかるむ田んぼに苦戦しながら熱心に苗を植えていました。田んぼの感触に戸惑っていた児童たちも植えかたのコツをつかむと、持ち前のチームワークでスピードアップしていました。

田植を体験した星先理一さん(下坂下)は「田んぼは、べちょべちょしていて転びそうになった。大変だったけど田植えは楽しい」と笑顔で話しました。



▶ 真剣に田植えに取り組む児童

新庁舎建設の安全を願って

新庁舎等安全祈願祭

新庁舎等建設工事安全祈願祭を7月9日、建設予定地である旧南関高校敷地内で行いました。式典には、町関係者のほか、県議会議員、町議会議員、代表区長、施工業者ら36人が出席し、玉串を捧げ、工事期間中の安全と円滑な施工を祈願しました。

施主を代表して町長が「町民の共有財産である庁舎が新しいまちづくりの一步となり、住民の皆さんの新たなよりどころとなるよう強く願います」とあいさつしました。

「安心・安全な防災の拠点となる庁舎」、「まちづくりの拠点・シンボルとなる庁舎」、「人と環境に優しく、利用しやすい親しみのある庁舎」を基本方針として令和3年12月の完成を目指し、本格的な建設工事が始まります。



▲ 神事の様子



▲ 玉串奉奠



▶ 納豆を頬張る児童

納豆を食べて夏を元気に

株式会社丸美屋が納豆を寄贈

株式会社丸美屋(東健代表取締役)は7月10日、納豆の日に合わせて町内の小中学校に納豆700個を寄贈しました。

同社は、子どもたちに納豆をたくさん食べてもらい、これから訪れる夏を健康に過ごしてほしいという気持ちを含めて、毎年この日に合わせ寄贈を続けています。

給食を食べた第三小学校(森山資典校長)の2年生の児童たちは「納豆はねばねばしておいしい」や、「納豆は普段食べないけど、おいしかったのでこれからは食べるようにしたい」と笑顔で感想を話しました。

住民サービス向上に寄与

玉名税務署から感謝状

町は確定申告のデータ引継ぎを積極的に推進したとして6月22日、玉名税務署(平嶋義伸署長)から感謝状を受け取りました。申告書のデータ引継ぎは、専用回線で電子データを送信することで申告書類紛失の防止や還付金の迅速化、行政事務の効率化につながります。

この日、平嶋署長は税務作業の積極的な協力に感謝を述べました。

佐藤町長は「住民の税への関心が高まるよう、これからも推進していきます」と話しました。



▶ 感謝状を手渡した平嶋署長



▶ 樋山支店長(左)

熱中症対策に糶甘酒を役立てて

株式会社伊藤園熊本支店支店長の樋山智秋さんは7月17日、佐藤町長を訪問し、令和2年7月豪雨で被害を受け過酷な生活を強いられている人、特に高齢者の熱中症対策に役立ててもらいたいと、糶甘酒30本入り36ケースを町に寄贈しました。

株式会社伊藤園は南関町出身のプロゴルファー大里桃子さんのスポンサー企業で、大里さんも7月10日に伊藤園の水とお茶、合わせて100ケースを町に寄贈しました。佐藤町長は「災害で困っている人たちに元気が出るようお配りしたい」とお礼を述べました。

子どもたちの環境教育に役立てて

熊本いづくに県民発電所

熊本いづくに県民発電所株式会社(石原靖也代表取締役)は7月15日、町の環境活動に対し、150万円を寄付しました。

同発電所はエコアくまもと(下坂下)の広大な屋根に太陽光パネルを設置し、発電事業を行っています。

石原代表は「町の子どもたちへの環境教育に使ってほしい」と話し、佐藤町長は「子どもたちが環境に関心を持ち続けてもらえるよう、環境を守る活動に使います」とお礼を述べました。



▶ 石原代表取締役(左)